

第6回柿田川シンポジウム『柿田川、「水」を見つめる。「水」を探る』 ～柿田川生態系研究会～

生態系グループ 研究員 川口 究

1. はじめに

柿田川は、延長1.2kmの狩野川の支川であり、静岡県清水町のほぼ中心部を南北に流れる。富士山の南東の山麓に位置し、富士山周辺で降った雨水や雪解け水が地下水になって湧き出してできた日本最大の湧水河川です。富士山全体の地下水の量は、1日当たり約450万 m^3 とも言われていますが、柿田川にはその約2割にも相当する1日約100万 m^3 が湧出しています。

水質はBOD 1 mg/L以下（微生物学的にも非常に清澄。細菌数は超純水に匹敵する約103 cells/mL）で安定しており、水温は年間を通じて15℃前後、流量も12 m^3 /s前後とほとんど変化がありません。また、土砂生産・運搬・堆積作用もほとんどみられないなど、他の河川では例がないような、極めて安定した環境を有しているといえます。一方、わずか1.2kmの小さな河川にもかかわらず生物種は豊富で、狩野川で確認された動植物の40～60%に近い種の生息が確認されています。



図-1 柿田川上流端付近の景観
一砂を噴き上げ地下水が湧き出す「湧き間」がみられますー

柿田川生態系研究会は、前述のような他では得られない湧水河川「柿田川」についての学問的興味に惹かれた研究者の任意の集まりであり、自然実験的な環境下で、外界の条件と生活史、生物群集、生態系の構造と機能を明らかにすることを目的に平成12年に発足して以来、9年間の研究活動を行ってきました。また、研究活動以外にも「河川環境保全の観点から、今後の柿田川のあり方を生態系の特性を把握していく中から地域の方々の意見を伺いつつ、ともに見出していく」という設立趣旨に基づき、生態学及び河川工学分野の学識経験者、地域住民、行政関係者が自由闊達な意見交換を同場としてシンポジウムを毎年開催しています。

2. 第6回柿田川シンポジウム

2009年11月14日(土)に沼津市の沼津市民文化セン

ター大会議室において第6回柿田川シンポジウム『柿田川、「水」を見つめる。「水」を探る』が開催されました。柿田川生態系研究会のメンバーら5人が発表し、柿田川の有するユニークな特徴などについて意見交換が行われました。発表テーマは「柿田川の自然をみつめる（東京大学大学院・知花講師）」、「柿田川の動物群集を支える有機物の起源と特徴（京都大学防災研究所・竹門准教授）」、「柿田川底生魚類の動向、狩野川との関係（静岡淡水魚研究会・板井会長）」、「アユと川（滋賀県立琵琶湖博物館・川那部館長）」、「世界の水、日本の水（日本水フォーラム・竹村事務局長）」であり、河川工学の専門家である知花講師からは、景観からみた柿田川の特徴や成り立ちについて話題提供が行われました。また、水生生物の専門家である竹門准教授からは、安定同位体分析による湧水生態系の群集構造解析について、板井会長からは、長年の調査から明らかになった柿田川の魚類相の特徴について最新の研究成果が報告されました。さらに、川那部館長からは、様々な文献の記述から見えてきた川とアユとの関係について、竹村事務局長からは、世界において顕在化している問題からみた世界の水状況について話題提供が行われました。

当日は、朝からの雨にも関わらず、柿田川の環境を保全してこられた地元の方々、柿田川の水を利用されている住民の方々、行政関係者、研究者など90名以上の方が参加され、柿田川やその川を構成する水、生態系に関する多様な側面からの発表に会場からも活発な質問が寄せられました。

3. おわりに

柿田川生態系研究会では、平成22年度に第7回柿田川シンポジウムを開催予定です。今年もたくさんの方々のご参加をお待ちしております。(詳細については、決定次第リバーフロント整備センターホームページ<http://www.rfc.or.jp/>内でご案内します。)



図-2 柿田川シンポジウム会場の様子